

2026年3月期 第2四半期(中間期)

(2025年4月1日 ~ 2025年9月30日)

# 決算補足資料

2025年11月10日

**ENOMOTO Co.,Ltd.**

東証プライム 証券コード:6928

(1)	2026年3月期第2四半期決算	P.3
(2)	2026年3月期業績予想	P.9

# (1)2026年3月期第2四半期決算



- ・ オプト用リードフレームのハイエンドLED向け、コネクタ用部品のスマートフォン向けの出荷ピークにより増収
- ・ パワー半導体用リードフレームは車載が回復傾向。民生・産機向けは調整局面が継続
- ・ 利益面では、工場稼働率の改善やメッキの内製化効果により収益力が向上

単位:百万円	2024/3期 2Q累計		2025/3期 2Q累計(前中間)		2026/3期 2Q累計(当中間)		期比較
	実績	売上比(%)	実績	売上比(%)	実績	売上比(%)	前期比(%)
売上高	13,020	100.0	13,419	100.0	14,652	100.0	+9.2
売上総利益	1,364	10.5	1,651	12.3	2,010	13.7	+21.7
販管費	1,227	9.4	1,293	9.6	1,280	8.7	△1.0
営業利益	137	1.1	358	2.7	729	5.0	+103.9
為替差損益	29	0.2	△56	-	13	-	-
経常利益	190	1.5	364	2.7	811	5.5	+122.8
当期純利益	87	0.7	270	2.0	588	4.0	+117.9
1株当たり純利益	13.10円	-	40.45円	-	92.21円		
1株当たり中間配当金	35.0円		35.0円		35.0円		

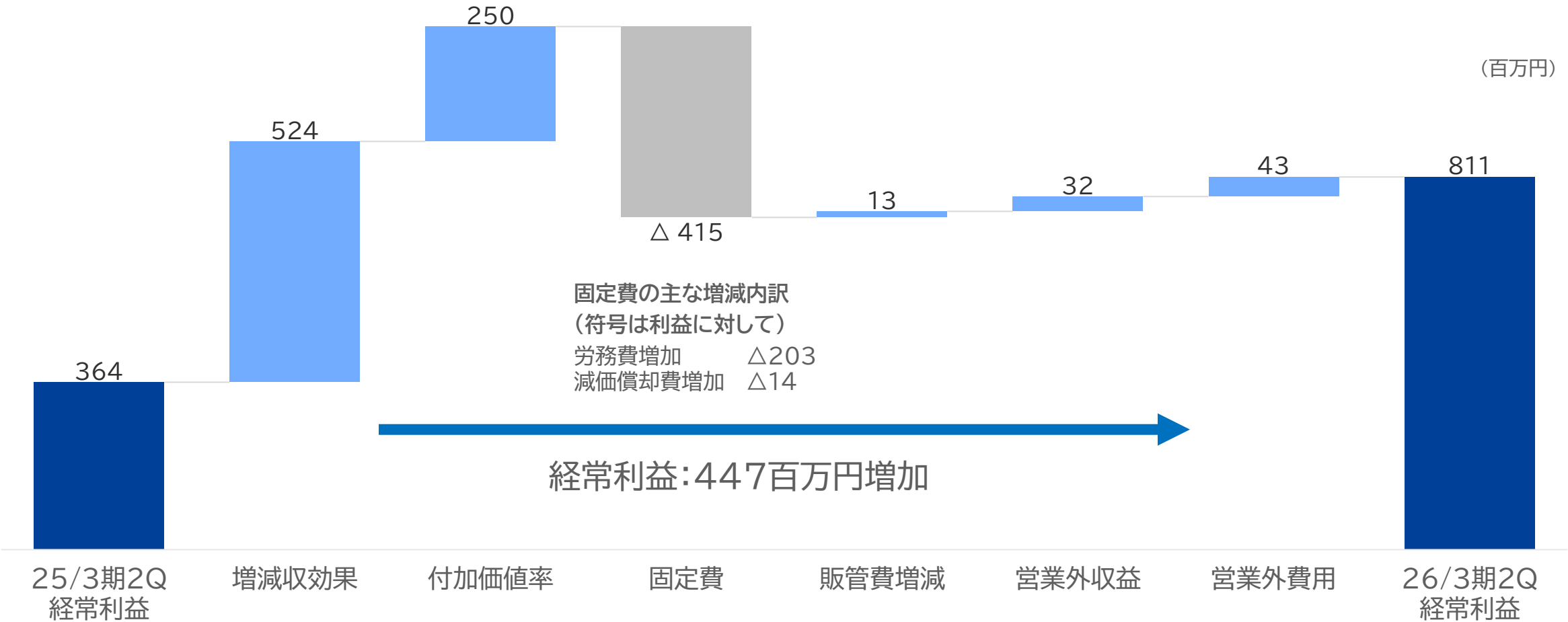
- ・ パワー半導体の車載向け、オプト用リードフレーム、コネクタ用部品を中心に増収
- ・ スマートフォンの新規モデル向けの出荷が第2四半期にピークを迎え、前年比でも好調
- ・ 工場稼働率やメッキ内製化による収益力の向上による増益

単位:百万円	2025/3期					2026/3期			
	1Q	2Q	3Q	4Q	通期	1Q	2Q	前同比(%)	1Q比(%)
売上高	6,506	6,912	6,917	6,543	26,880	7,146	7,505	+8.6	+5.0
売上総利益	749	902	877	617	3,147	940	1,069	+18.6	+13.8
販管費	645	648	620	614	2,528	629	651	+0.4	+3.5
営業利益	104	253	256	3	618	311	418	+65.0	+34.4
為替差損益	5	△61	35	△45	△65	12	0	-	-
経常利益	135	228	332	△26	669	336	474	+107.8	+41.0
四半期純利益	47	223	140	37	447	263	325	+46.0	+23.7

- ・ パワー半導体用リードフレームは車載向けが緩やかながら回復した一方で、民生・産機向けは在庫調整が続く
- ・ オプト用リードフレームはハイエンドLED向け製品の量産が本格化し、生産量も大幅に増加
- ・ コネクタ用部品はスマートフォンの新規モデル向けが前年同期比増加、ウェアラブル端末向け・車載向けも堅調に推移

単位:百万円	2025/3期					2026/3期			
	1Q	2Q	3Q	4Q	通期	1Q	2Q	前同比 (%)	1Q比 (%)
パワー半導体用 リードフレーム	2,662	2,734	2,738	2,637	10,771	2,615	2,535	△7.3	△3.1
オプト用 リードフレーム	728	742	901	998	3,371	1,108	1,205	+62.4	+8.8
コネクタ用部品	2,959	3,248	3,114	2,763	12,085	3,264	3,621	+11.5	+10.9
その他	156	188	163	144	651	158	142	△24.0	△9.9
合計	6,506	6,912	6,917	6,543	26,880	7,146	7,505	+8.6	+5.0

- 増減収効果      オプト用リードフレーム及びコネクタ用部品のウェアラブル端末向け等が増収
- 付加価値率      ①メッキの内製化による、付加価値の取り込み  
②オプト用リードフレームのハイエンド品の増加
- 固定費          ①労務費が賃上げと生産高上昇に伴い増加  
②減価償却費、電力費の増加



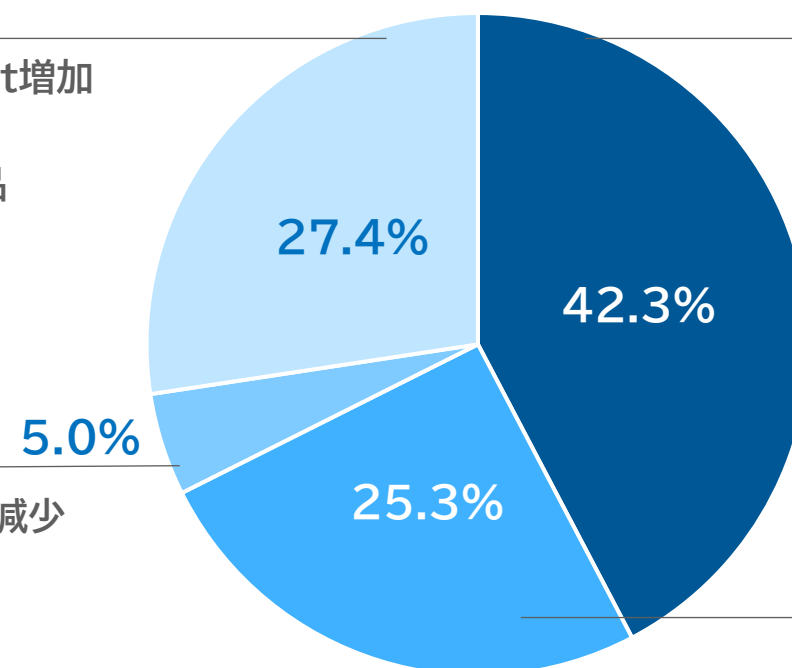
- ・ 車載はパワー半導体用リードフレームは回復、エアバッグ向け堅調、ハイエンドLED用リードフレーム量産開始
- ・ スマートフォン向けも新モデル中心に需要堅調
- ・ 民生・産機・その他はハイエンドLED用リードフレームの量産が本格化して増加

## 民生・産機・その他

- ・ 構成比は前期の26.5%から 0.9pt増加  
売上高前期比 13.9%増加
- ・ LED用リードフレームはハイエンド品  
出荷開始により増加
- ・ ドローンなど新たな用途に向けた  
コネクタ用部品の受注による増加

## ウェアラブル

- ・ 構成比は前期の5.9%から 0.9pt減少  
売上高前期比 7.0%減少
- ・ 新製品の立ち上げが進行中
- ・ 引き続き、中期的な需要は堅調と予測



## 車載

- ・ 構成比は前期の42.2%から 0.1pt増加  
売上高前期比 10.3%増加
- ・ xEV向けパワー半導体用リードフレームの回復
- ・ エアバッグ向けコネクタ等は堅調に推移
- ・ 車載向けLED用リードフレーム量産開始

## スマートフォン

- ・ 構成比は前期の25.4%から 0.1pt減少  
売上高前期比 9.7%増加
- ・ スマートフォン向けコネクタ用部品の好調



## (2)2026年3月期業績予想



- ・ オプト用リードフレームはハイエンド品が民生向けに続き車載向けも順次量産開始の予定で、着実な成長が続く
- ・ メッキや樹脂成形が必要な高付加価値製品をターゲットに受注活動強化、製造工程の自動化を加速し、増益を予想
- ・ 米国関税政策の影響や地政学リスクなどによる先行きの不透明感を鑑み、慎重な予想

単位:百万円	2024/3期		2025/3期		2026/3期		期比較
	実績	売上比(%)	実績	売上比(%)	予想	売上比(%)	前期比(%)
売上高	25,244	100.0	26,880	100.0	27,000	100.0	+0.4
売上総利益	2,654	10.5	3,147	11.7	3,600	13.3	+14.4
販管費	2,494	9.9	2,528	9.4	2,600	9.6	+2.8
営業利益	160	0.6	618	2.3	1,000	3.7	+61.6
経常利益	291	1.2	669	2.5	1,050	3.9	+56.9
当期純利益	121	0.5	447	1.7	700	2.6	+56.3
1株当たり当期純利益	18.16円	-	68.51円	-	109.64円	-	-
配当金	70.0円	-	71.0円	-	71.0円	-	-

- ・ パワー半導体向けリードフレームは中国の民生・産業機器向けが調整継続、自動車向けは緩やかながら回復
- ・ オプト用リードフレームはハイエンドLED向けの量産が順次開始、増収が続く
- ・ コネクタ用部品は全体的に堅調な予測、スマートフォン向けは季節調整はあるが、ウェアラブル端末向けの更なる成長に期待

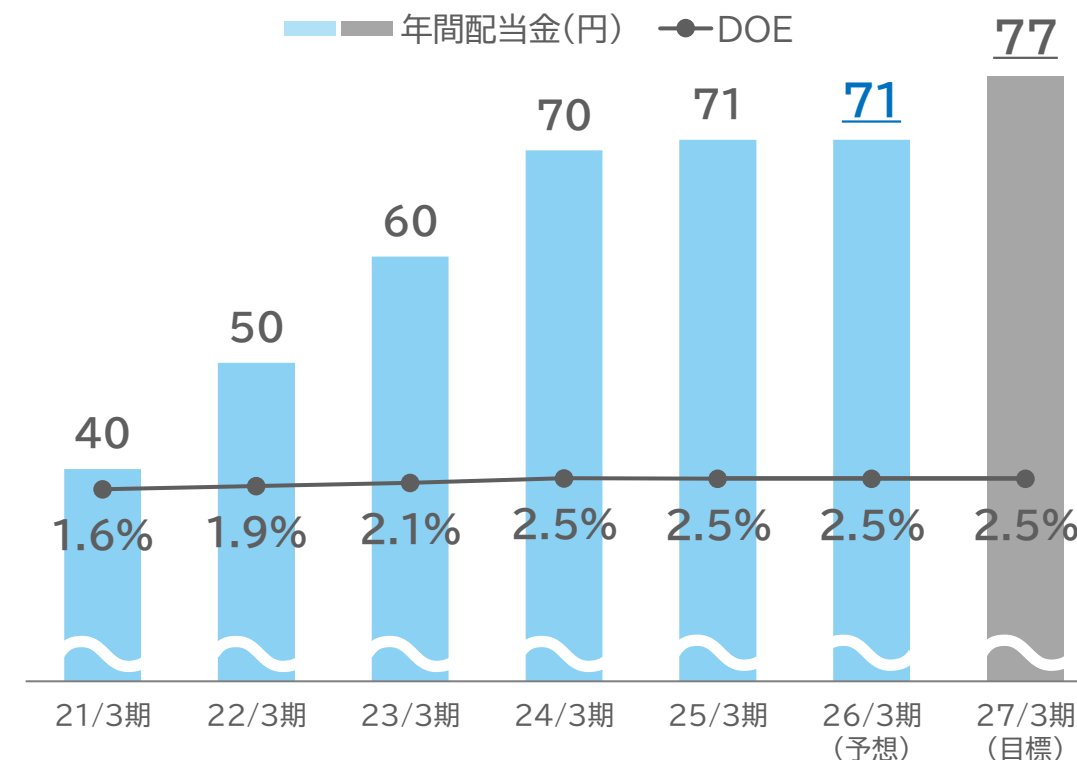
単位:百万円	2024/3期		2025/3期		2026/3期		
	実績	構成比(%)	実績	構成比(%)	予想	構成比(%)	
パワー半導体用 リードフレーム	11,112	44.0	10,771	40.1	10,000	37.0	△7.2
オプト用 リードフレーム	2,647	10.5	3,371	12.5	4,300	15.9	+27.6
コネクタ用部品	10,989	43.5	12,085	45.0	12,200	45.2	+1.0
その他	495	2.0	651	2.4	500	1.9	△23.3
合計	25,244	100	26,880	100.0	27,000	100.0	+0.4

- ・ 2023年5月に配当方針をDOE2.5%以上に変更、2026年3月期もDOE2.5%以上となる71円の配当を継続

## 2024年3月期以降の配当方針

- ・ DOE2.5%以上を配当の数値基準とする
- ・ 中期経営計画「2nd STEP」でも、最適な自己資本水準や短期的な利益増加の反映方法を総合的に勘案しつつ、増配トレンドを継続する
- ・ 2026年3月期は71円配当を予定  
(DOE2.5% DOE(自己資本配当率) = 年間配当額 / 株主資本)

## 配当金・DOEの推移





## 注意事項

事業の展望、業績予想等の将来の動向にかかる記載につきましては、歴史的事実ではないため、不確定な要素を含んでおります。

現在入手可能な情報に基づいて作成したものであり、実際の業績は、今後の様々な要因により予想と異なる結果となる可能性があることをご了承願います。